

78. <ディスポーザは普及するでしょうか>

ディスポーザは家庭の生ごみを粉碎し、下水道に流す電化製品である。ディスポーザには2種類あり、一つはディスポーザ排水が直接下水道施設に流され、最終的には下水処理場で処理される直接投入型タイプである。もう一つは、排水処理装置を付加したディスポーザ排水処理システムといわれるタイプである。前者のタイプは、当然下水道施設に負荷がかかるため（負荷としては少ないのですが）、多くの自治体で禁止しているのが現状である。しかし、北海道等雪深い地域では、冬場の生ごみ出し労力軽減のため、直接投入型ディスポーザを許可している自治体が全国で8箇所ある。

ディスポーザは家庭の生ごみ全てを処理できるわけではない。例えば、生魚の皮、生の鶏肉の皮そしてプラスチック容器等は処理できない。また、生活リズムとして、居間でみかんを食べて、わざわざその皮をディスポーザにて処理する人は少ないであろう、多くはゴミ箱である。

近年、生ごみの持つバイオエネルギーが注目を浴び、ディスポーザを介して、生ごみの持つエネルギーを回収しようと言われている。ごみの処分コスト減とディスポーザによる下水の処理コスト増を考慮した場合、全体としてメリットはあると言う報告もある。しかし、エネルギー消費量、温室効果ガス排出量は増である。また、普及率でよく対比される電化製品として挙げられるのが、「食器洗い機」である。「食器洗い機」の普及率は16.6%(2005年)、価格もディスポーザとほぼ同じ10万円前後（工事費込み）である。さて、今後、ディスポーザは普及するでしょうか？

< 遠山 晃二 >

※ J S 技術開発情報メール No.86 号(2009/1/7)に掲載